

第一章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく
「ともだちとてをつないで…」

p.16
～
p.17

中心資料

小学校読み物資料とその利用 平成四年三月 文部省
「ゆっきと やっち」

【主題名】 助け合おう友だち

第一学年及び第二学年 2-③

「友達と仲よくし、助け合おう。」

【ねらい】 友達と仲よくし、助け合おうとする態度を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》「『心あかるく』一・二年生の時期の児童は、まだ幼さが残り、友達の立場や気持ちを理解することなく、自分を中心に物事を考えてしまうことがあります。うれしさや楽しさを友達と共有できたときの喜びや、困っているときに助けてくれた友達の存在の大切さに気付かせることで、互いの違いを認め合いながら、協力し助け合おうとする姿勢を身に付けさせることが大切です。」



「学校で、友達と一緒にこのようなことをしていますか。」

○学校における友達とのつながりを思い出させ、数名の児童に発表させます。友達や友情について意識を向けさせます。

○教師が「ゆっきと やっち」を読み聞かせましょう。



「だれが速く飛べるかくらべっこをするようになったとき、ゆっきはゆっきのよきな気持ちだったでしょうか。」

○ゆっきはやっちよりも速く飛べないことを踏まえて、ゆっきの気持ちを考えさせましょう。



中心発問
「ぼくのじゆんはいつから、先『いけよ』というやっちの言葉を聞いたとき、ゆっきはゆっきのよきなことを考えたでしょうか。」

○おながが痛くて困っているやっちをみて、どうすればよいのか迷っているゆっきの気持ちについて考えさせましょう。



「やっちと並んで飛んでくらべっこは、ゆっきのよきな気持ちだったでしょうか。」

○ゆっきが友達を助けたときの気持ちについて考えさせ、ねらいとする道徳的価値に迫っていくようにしましょう。

○ねらいとする道徳的価値に迫る大切なところなので、中心発問で考えさせたことをもとにしながら、じっくりと考えさせましょう。

《評価》 困っている友達を助けたゆっきの気持ちについて考えることができたか。



「今までに友達と助け合えたことはありませんか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」

○自分の行動とそのときの気持ちをじっくりと振り返らせましょう。

終末

○「心あかるく」 p.16 ～ p.17 「ともだちとてをつないで…」の詩を教師が読み聞かせましょう。そして、ねらいとする道徳的価値に沿って、自分の経験を振り返らせましょう。
○教師が、困っているときに友達に助けられたり、困っている友達を助けたりした経験を語りましょう。

板書例

ゆっきと やっち

だれが はやくとべるか くらべっこをする ことに なったとき、ゆっきは どのようなきもちだったでしょうか。

ぼくはだれにもまけない

できるだけがんばってみよう。

はやくとべないから、やりたくないなあ。

やっちは、はやくとべるからいいなあ。

ゆっきの絵 やっちの絵

やっちの ことばを きいたとき、ゆっきは どのようなことを かんがえたでしょうか。

ぼくのことはいいから、ききに いけよ。

やっちがおなかを痛がっている絵

迷っている ゆっきの絵

こまっているやっちをこのままにはしておけない。
やっちがさきにいけよっていつてるからさきにいこうかな。

やっちと ならんで とんでいく ゆっきは、どのようなきもちだったでしょうか。

ありがとう ゆっき。

やっちの絵

ゆっきの絵

やっちにおれいをいわれてうれしい。
こまっているともだちをたすけるのはあたりまえだよ。
ともだちをたすけることができ、きもちがいい。

《評価》

友達と仲よくし、助け合おうとする態度を養うことができたか。